

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

公衆衛生大学院における患者のためのメディカル・ライティングの
教育プログラム作成に関する検討

研究代表者 高山 智子 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供部
研究分担者 中山 健夫 京都大学医学研究科 健康情報学分野
研究協力者 木内 貴弘 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻
医療コミュニケーション学
研究協力者 奥原 剛 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻
医療コミュニケーション学
研究協力者 早川 雅代 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供部
研究協力者 矢口 明子 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供部

研究要旨

本研究では、必要とされるがんの情報の作成（ライティング）に関して、どのような知識やスキルが必要であるのか、また必要な知識やスキルの教育プログラムにはどのような要素が必要であるのかを検討することを目的とした。東京大学および京都大学に設置されている公衆衛生大学院との共同プロジェクトとして、それぞれ2回ずつのトライアル講義を実施し、がんの情報の作成のプロセスについては、異なる知識とスキルが必要と考えられる4つのプロセス（①参考文献の選定、②エビデンスの抽出と構成案の作成、③情報の作成（初稿）、④情報の作成（修正稿））について、より広い対象を想定した場合の教育プログラムの内容と課題について整理を行った。その結果、4つのプロセスのいずれにおいても、医療に関する専門資格の有無は、教育プログラムを構成する際のポイントになると考えられた。一方で、医療の専門資格の有無をバランスよく参加者に含めることは、さまざまな視点や表現について学ぶためには、参加者にとって非常に有意義であると考えられた。公衆衛生大学院で履修している背景や個人々の医療専門資格等の有無等を踏まえて教育プログラムを構成することで、効果的、効率的なプログラム作成が可能になると考えられた。

A. 研究目的

患者や市民が求めるがん情報は、がんの診断や治療方法、その後の療養生活など多岐に渡る。このようながんに関する情報をニーズに沿って広く作成し、提供するには、患者や市民向けの情報作成の担い手が必要

である。しかし、さまざまなメディカル・ライティングの担い手は存在するものの、患者のためのメディカル・ライティングをどのように行うかについての共通の認識やノウハウの蓄積は十分ではない。

本研究では、必要とされるがんの情報の

作成（ライティング）に関して、どのような知識やスキルが必要であるのか、また必要な知識やスキルの教育プログラムにはどのような要素が必要であるのかを検討することを目的とした。

B. 研究方法

東京大学および京都大学に設置されている公衆衛生大学院との共同プロジェクトとして、トライアル講義を実施した（表1，表2）。それぞれ2回ずつ実施し、今後の教育プログラムのあり方について検討を行った。

がんの情報の作成のプロセスについては、以下の4つのプロセスそれぞれに異なる知識とスキルが必要と考え、東京大学においては、③④に、京都大学においては、①②に焦点を当て、今後より広い対象を想定した場合の教育プログラムの内容と課題について整理を行った。

- ①参考文献の選定
- ②エビデンスの抽出と構成案の作成
- ③情報の作成（初稿）
- ④情報の作成（修正稿）

C. 研究結果

知識・スキルが異なると考えられる4つのプロセスのうち、③情報の作成（初稿）、④情報の作成（修正稿）についての検討においては、医療に関する専門資格を有するか有しないかのバックグラウンドにより、情報作成の際の難しさを感じた部分に違いが見られた。またフィードバックの方法として、個別に提出された課題のフィードバックを行ったのち、間違いやすいポイントを複数の参加者とディスカッションを行ったところ、なぜその表現を選んだか、どういう点で

よいのかなどについて、さまざまな視点での意見が出された。

また、①参考文献の選定、②エビデンスの抽出と構成案の作成の検討については、③④での検討と同様に、医療資格のバックグラウンドによる違いが見られた他、どのような参考情報から情報を抽出するか、構成案を作成する際に軸とする内容に違いがみられた。

D. 考察

今回の検討では、2校の教育と有志の学生およびOGの協力を得て、患者のためのメディカル・ライティングの教育プログラムの内容と課題について検討を行った。知識・スキルが異なると考えられる4つのプロセスのいずれにおいても、医療に関する専門資格の有無は、教育プログラムを構成する際のポイントになると考えられた。一方で、医療の専門資格の有無をバランスよく参加者に含めることは、さまざまな視点や表現について学ぶためには、参加者にとって非常に有意義であると考えられた。

また今回トライアル講義を行った2校は、公衆衛生の専門職大学院で、すでにエビデンスレベルの必要性や重要性についての基本的な考え方を身につけていた。信頼できる情報を作成する際に必要な情報をどこから抽出してくるかについても同様の知識が必要であることから、今回のトライアル講義は、学習履歴という点においても非常に効率的および効果的に進められるプログラムに発展することが期待できると考えられた。

今回実施したトライアル講義を今後さらにブラッシュアップしていく過程において、

参加者の背景知識の違いを活かしつつ、効果的に患者のためのライティングの学びにつなげられるポイントや方法について検討を深めていくことが必要であると考えられた。

E. 結論

がんの情報の作成(ライティング)について、知識やスキルが異なると考えられる4つのプロセスについて、公衆衛生大学院の学生およびOGを対象に、トライアル講義を通じて、教育プログラムの検討を行った。公衆衛生大学院で履修している背景や個人の人医療専門資格等の有無等を踏まえて教

育プログラムを構成することで効果的、効果的なプログラム作成が可能になると考えられた。

F. 健康危険情報(分担研究報告書には記入)
G. 研究発表 1. 論文発表 2. 学会発表
(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし

表1. 東京大学および京都大学でトライアルとして実施した教育プログラムの概要

<p>「患者のためのメディカル・ライティング講座」トライアル版 (東京大学)</p> <p>東京大学 大学院医学系研究科 公共健康医学専攻 医療コミュニケーション学大学院専攻の有志6名および教員4名</p> <p>国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供部</p> <p>京都大学 大学院医学系研究科 健康情報学分野 教員1名</p> <p>1. 1日目: 2018年6月12日(火) 10:30-12:00</p> <p>1) がん情報サービスの情報作成と情報づくりのポイント(講義) 高山</p> <p>2) 療養情報の作成方法のポイント(講義) 早川</p> <p>3) がん情報サービスでの療養情報の作成枠組みの紹介(講義) 矢口</p> <p>4) 質疑応答・ディスカッション</p> <p>5) 課題の提示: 参考文献例の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 課題: 療養情報(発熱・発熱性好中球減少症、吐き気・嘔吐、痛み)のうち一つを選び、各自構成案を作成する。構成案のフィードバックを受けた後、その構成案にしたがい初稿を作成する。 <p>2. 2日目: 2018年7月24日(火) 10:30-12:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 課題提出内容のフィードバック講義 ● 受講者からの感想およびディスカッション <p>患者のためのメディカル・ライティング講座」トライアル版 (京都大学)</p> <p>京都大学 大学院医学系研究科 健康情報学分野専攻のOG有志5名および教員1名</p> <p>国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供部 3名</p>
--

東京大学 大学院医学系研究科 公共健康医学専攻 医療コミュニケーション学大学院専攻 教員2名

1. 1日目：2018年11月28日（水）14:30-17:00

- 1) がん情報サービスの情報作成と情報づくりのポイント（講義）高山
 - 2) 療養情報の作成方法のポイント（講義）早川
 - 3) 患者がほしい情報とは（「排尿のトラブル」のPatient views and preferencesの収集情報の紹介）
 - 4) がん情報サービスでの療養情報の作成枠組みの紹介（講義）矢口
 - 5) 質疑応答・ディスカッション
 - 6) 課題の提示：参考文献例の紹介
- 課題：女性の排尿トラブル、男性の排尿トラブル について、どちらかを選び、各自構成案を作成、必要なエビデンスや情報を引用文献をつけて整理する。

2. 2日目：2019年2月20日（水）15:30-17:30

- 1) 各自作成した構成案の紹介
- 2) ディスカッション（構成案の吟味）
- 3) 京大チームとしての構成案の作成（盛り込むべき情報・エビデンスレベル考慮）

表2. 東京大学および京都大学でトライアルとして実施した教育プログラムの概要（演習課題内容）

【演習課題】「①参考文献の選定と②エビデンスの抽出と構成案の作成」について

1. 本課題の目的

患者の視点で、どのような情報が必要か、また、必要とされる情報について、エビデンスに基づく情報を探し、書くべき要素と構成案を検討することを通して、患者向け療養情報作成プロセスの構成案の作成について学ぶ。

【演習課題】「③④情報の作成」について

ライティングを行うテーマ：「痛み」「吐き気・嘔吐」「発熱・好中球減少症」について

この中から1つ選んで、下記の要領にしたがって、ライティングを行う。

1. 本課題の目的

がんについて信頼できる最新の正しい情報を、患者やその家族等に対して、わかりやすく紹介するためのコンテンツ作りを通して、科学的根拠に基づいた質の高い情報の作成過程及び患者向けの情報提供のあり方について学ぶ。

2. がん情報サービスにおける情報の作成

以下の全体のプロセスのうち、「情報（原案）作成」部分の作成を行う。

作成するコンテンツのチェックポイント

- 1) 診療ガイドラインなどで推奨された科学的根拠に基づく情報（もしくは、医学的コンセンサスが得られた情報）であるか。
- 2) ガイドラインおよび学会レベルでのコンセンサス、社会保障制度を踏まえた、必要十分な情報が網羅されているか。
- 3) 患者をはじめとする読者にとってわかりやすいか。

4) 読後に希望や温かみを感じさせる表現になっているか。

5) 読者が担当医をはじめとする医療者とのコミュニケーションに役立つような示唆が得られるか。

3. 作成する療養情報コンテンツの概要

■ 提供媒体

ウェブサイト

■ 対象とする読者

がん患者とその家族、がんに関心のある一般の方々

第一に患者。差し迫った身体状態、精神状態ではない。

■ 目的

ガイドラインおよび学会レベルでのコンセンサス、社会保障制度を踏まえた療養内容を一般向けにわかりやすく紹介し、科学的根拠に基づいたがんに関する知識を普及させることを目的とする。

患者が自己判断する材料ではなく、医師とのコミュニケーションのきっかけとなるものを旨とする。

■ 構成

◇ 全体構成と文字数

ポイント 300字程度

本文 1500字程度、最大2000字

- ・ 出典（参考文献）の優先基準
- ・ 日本で作成されたもの優先とする。その上で、以下 i ~ iv の上位から使用する。

i. ガイドライン（出典の記載あり）

ii. 組織が作成した手引き（出典の記載あり）

iii. 組織が作成したガイドラインや手引き（出典の記載がないもの）

iv. 個人が作成した教科書や手引き（出典の記載あり）

※ 個人が作成したものについては、出典の記載がなければ使用しない

- ・ 文章の記述方法
- ・ 目の前の患者さんに説明するつもりで語り口調で（ただし口語は使わない）で記述する。医療者向けの教科書にならないようにする。参考資料2（患者や家族等にはわかりにくい／誤解を招く可能性のある表現の例）を参考に一般の人にやさしい表現を用いて記述する。